

ICTを活用した伝統芸能の継承と普及に関する研究 -持続可能な地域づくりの視点から-

浜松学院大学 現代コミュニケーション学部

指導教員：教 授 津村公博

非常勤講師 田島喜代美

参加学生：増野皓太、江部舞、岡崎諒、金子亮汰

古川竣大、古水しおり、宮城チエミ

渥美三四朗、角谷奏樹、笠原里々花

金子姫慧、北沢匠、樽松依吹、鈴木穂乃

佐藤優花、袴田瑞貴、豊村ゆかり

1 要約

1999年から2010年にかけて実施された平成の市町村合併により20年以上経過した現在、社会経済情勢は大きく変化し、人口減少と高齢化の進行など、地方都市の市町村を取り巻く環境は厳しさを増している。平成22年総務省の「平成の合併について」によると、合併による問題点の原因として、「行政と住民相互の連帯の弱まり」「財政計画との乖離」、「周辺部の衰退」をあげている。もちろん、財政基盤の強化と行政の効率化においては、一定程度評価することができるが、反面、合併した旧町村の方が、合併しなかった町村より、人口が減り、高齢化が進んでおり、周辺部の活力の低下やそれに伴う伝統文化の喪失などを指摘している（日本弁護士連合会2019） わたぼうしグランドデザインは、勝坂神楽保存会および川名ひよんどり保存会に対して平成28年度より中山間地域が有する地域資源を活用したツーリズムを通じた地域の振興と活性化に取り組んできた。しかし、令和2年の新型コロナウイルス感染症の拡大により、その価値が大きく変化した。そのなかで、総務省は、地域文化のデジタル化を推進しており、平成15年版情報通信白書によると、生活様式の変化や高齢化の進展に伴い、広い意味での地域文化の保存・継承が急務であり、文化財等をデジタル情報として保存する取組がそのための有効な手段として推進している。勝坂神楽保存会および川名ひよんどり保存会も、コロナ禍における伝統継続にはICT技術の活用が大きな役割を果たしている。これまで現地に訪れる事ではしか得られなかった伝統芸能の体験を、ICT技術により外に開くことを、保存会から大学生に託されたことは、新たな可能性を見出すこととなった¹。本年度は、地域の子どもの伝統芸能の参加及び継承活動を目指し、VR技術を活用したデジタル教材活用したカリキュラムに着手した。本研究の対象である天竜区春野町勝坂集落に伝わる浜松市指定無形民俗文化財「勝坂神楽」及び北区引佐町川名集落に伝わる国指定重要無形民俗文化財「川名のひよんどり」も、いわゆる過疎地域での人口の減少と高齢化の進展が著しく、継承活動が困難になりつつある。本研究では、地域の過疎化に伴う伝統芸能の衰退あるいは消滅への歯止めをかける役割として、ICTの積極的な導入と伝統芸能継承プラットフォームの構築の効果を聞き取り調査から、伝統芸能の将来のシナリオを分析する。

2 研究の目的

本研究は、少子高齢化から地域の伝統芸能の継承に困難を感じる浜松市内の2つの伝統芸能保存会を対象として参加観察及びヒアリング調査を実施し、ICTを活用した継承活動の可能性のシナリオを提示することである。以下に、簡単に本年度の研究目的に至る経緯を説明する。NPO法人わたぼうしグランドデザインは、中山間地域の少子高齢化による過疎化の課題を目的として、第1期の観光目的とした限定的・単発的なツーリズムの実施から、2019年より参加対象を子どもとその保護者に設定して、中山間地域の自然と伝統文化をテーマとした長期的・発展的なプログラム（スクール化）を第2期とした。子どもを対象としたことから、夢基金（文部科学省助成）の助成も得て実施した。しかし、2019年の新型コロナウイルスの蔓延から、現地での継続的な開催を断念するに至り、その際に、対象地域の自治会・伝統芸能保存会と話し合った結果、伝統芸能保存会及びNPO法人わたぼうしグランドデザインの双方が継承活動に専念すると合意した。

¹「勝坂神楽」に関しては、神事の配信を決め、首都圏を中心にオンラインイベント運営サービスを活用して、オンライン参加者を募集した。「川名のひよんどり」は、令和2年度は、無観客にして、若蓮による「火取り」のみを実施して、伝統芸能である舞を縮小して実施した。神事に関しては、メディアスタジオを設置し、YouTubeにて10時間に渡り配信した。「勝坂神楽」、「川名のひよんどり」とも大きな期待が寄せられた。

本研究が、全国において地域伝統芸能の継承が困難な中山間地域の地域課題の解決に貢献する対策の一助となると考える。

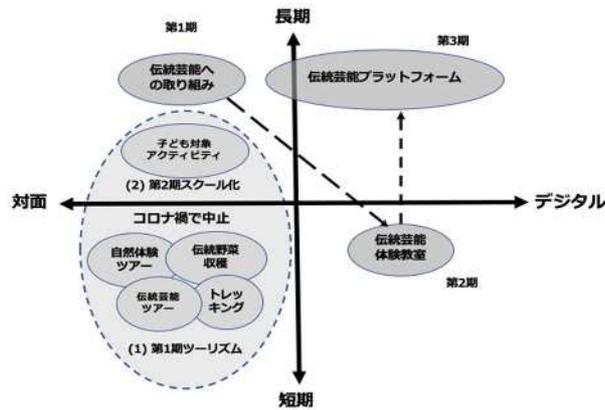


図1 事業の変遷

3 研究の内容

令和2年に静岡県浜松市の中山間地域において伝統芸能を継承する2つの伝統芸能保存会、「勝坂神楽保存会」「川名ひよんどり保存会」を対象として、大学生による「NPO法人わたぼうしグランドデザイン」によりICTを活用した伝統芸能継承活動プロジェクトの活動に対して、以下の表にある、聞き取り調査を10の個人・組織を対象として実施した。勝坂神楽保存会および川名ひよんどり保存会に対して、わたぼうしグランドデザインは、平成28年度より中山間地域が有する地域資源を活用したツーリズムを通じた地域の振興と活性化に取り組んできた。しかし、令和2年の新型コロナウイルス感染症の拡大により、その価値が大きく変化した。その状況において、総務省は地域文化のデジタル化を推進し、平成15年版情報通信白書によると、生活様式の変化や高齢化の進展に伴い、広い意味での地域文化の保存・継承が急務であり、文化財等をデジタル情報として保存する取組がそのための有効な手段として推進している。勝坂神楽保存会および川名ひよんどり保存会も、コロナ禍における伝統継承にはICT技術の活用が大きな役割を果たしている。これまで現地に訪れる事では得られなかった体験を、ICT技術により外に開くことを、保存会から大学生に託されたことは、新たな可能性を見いだすこととなった²。本年度は、地域の子どもの巻き込んだ継承を目指し、VR技術を活用したデジタル教材づくりに着手した。研究方法は、浜松市の中山間地域の2つの伝統芸能を調査対象として、以下の組織・団体にヒアリングを実施した。

表1 インタビュー一覧

対象団体・組織	対象	方法	月日	時間	場所
勝坂神楽	保存会会長	半構造化インタビュー	6月4日	11:30	勝坂集落
	保存会会長	参与観察	6月5日	11:00	勝坂集落
	保存会会長	半構造化インタビュー	8月28日	13:00	勝坂集落
	保存会会長	参与観察	9月16日	14:00	電話
	保存会会長	参与観察	10月23日	13:00	勝坂集落
	自治会会員	グループインタビュー	12月23日	19:00	勝坂かぐら伝承館
川名のひよんどり	保存会会長	半構造化インタビュー	5月15日	10:30	旧川名小学校
	保存会役員	グループインタビュー	6月2日	11:00	福満寺薬師堂
	保存会役員	参与観察	9月16日	13:00	川名集落
	保存会役員	参与観察	11月12日	13:00	旧川名小学校
	保存会会長	参与観察	11月15日	17:00	東京
	保存会役員	参与観察	11月23日	19:00	旧川名小学校
浜松市文化財課	職員	半構造化インタビュー	9月30日	16:00	浜松市役所
浜松市天竜区春野文化センター	職員	参与観察	10月23日	14:00	春野文化センター
NPO法人わたぼうしグランドデザイン	代表理事	半構造化インタビュー	11月9日	19:00	福満寺薬師堂

²「勝坂神楽」に関しては、神事の配信を決め、首都圏を中心にオンラインイベント運営サービスを活用して、オンライン参加者を募集した。「川和のひよんどり」は、令和2年度は、無観客にして、若蓮による「火取り」のみを実施して、伝統芸能である舞を縮小して実施した。神事に関しては、メディアスタジオを設置し、YouTubeにて10時間に渡り配信した。「勝坂神楽」、「川和のひよんどり」とも大きな期待が寄せられた。

4 研究の成果

(1)・(2) 当初の計画と実際の内容

以下の表に当初の計画と追加の活動を示した。併せて10事業を実施した。追加の事業は、浜松市から2事業の提案、企業から1事業、静岡県立高からの2つの提案があった。

表2 R4年度実施事業一覧

計画	活動		対面式/ICT	内容	実施	
	活動	活動				
計画	(1)アドベンチャースクール	8月28日	ADVENTURE SCHOOL in 勝坂	対面式+ICT	勝坂での自然体験+伝統芸能	B
	(2)勝坂神楽ツアー	10月23日	見て感じて、勝坂神楽	対面式+ICT	YouTube配信	A
	(3)勝坂神楽体験教室			対面式+ICT	勝坂神楽VR体験(気田小・犬居小)	A
	(3)川名ひよんどり	1月4日	ライブツアー「川名ひよんどり2023」	対面式+ICT	VRキット360度カメラ YouTube配信	A
(4)川名ひよんどり(児童対象教室)	8~2月	かわなホームーズ	対面式+ICT	集落の児童を対象5回実施 VRキット	A	
計画から追加	(5)中山間地域交流デラックス事業	11月12日	浜松市中山間地域グループ主催事業	対面式	浜松市市民協働地域政策による事業	新規
	(6)SDGs体験型プログラム	8月3日	JAとびあ浜松受託事業 「VRで学ぼう! SDGs教室」	対面式+ICT	伝統文化×五穀豊穡×食 VRゴーグルをによる仮想現実体験	新規
	(7)県立天竜高校春野校舎	3月15日	令和4年度地域活性化事業	対面式	春野町の未来を考える	新規
	(8)大学生交流フェスタ2022	12月5日	勝坂神楽を伝える	対面式+ICT	VRキット活用360度カメラ	新規
	(9)静岡県立 浜松北高等学校	9月16日	川名アドベンチャーーツーリズム	対面式	川名ひよんどり体験教室	新規
	(10)浜松やらまいか交流会2022	11月15日	浜松市企画課主催事業	広報活動	文化財課、川名ひよんどり保存会に同行し活動報告	新規

(3) 実績・成果と課題

以下の図は、勝坂神楽と川名のひよんどりの今後のシナリオである。勝坂神楽は、今後、地域と一体となり、次世代の継承者として児童・生徒が取り組みが重要である。川名のひよんどりは、周辺地域の小学校は、総合学習の時間を活用して、ひよんどりの歴史を学んでいるため、今後は、ICTを活用して地域をさらに拡充していく必要がある。

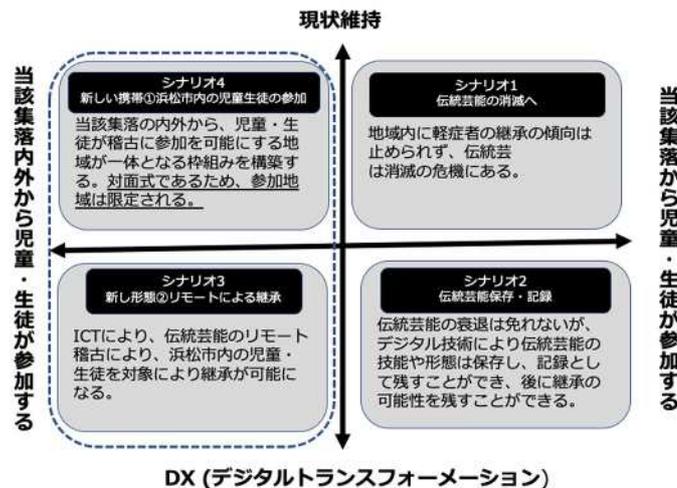


図2 伝統芸能継承のシナリオ

(4) 今後の改善点や対策：デジタル技術を活用した伝統芸能の継承

以下の図は、勝坂神楽と川名のひよんどりの今後のシナリオである。勝坂神楽は、保存会の高齢化と保存会に継承者が存在しないことから、継承活動は困難な状態である。今後、シナリオ2にある勝坂神楽を記録・保存することに加えて、地域と一体となり、次世代の継承者として児童・生徒の取り組みが重要である。川名のひよんどりは、周辺地域の小学校の総合学習の時間を活用して、ひよんどりの歴史を学んでいるため、今後は、ICTを活用して地域をさらに拡充して継承活動を継続して必要がある。

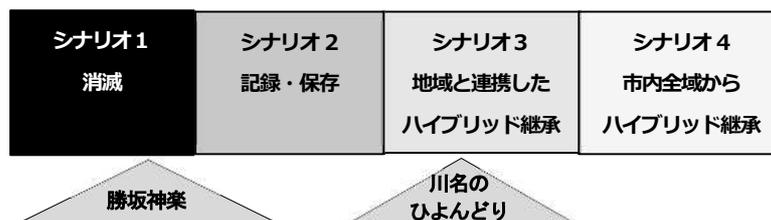


図3 伝統芸能継承の現状

5 地域への提言

平成31年4月の国の文化財保護法の改正を受けて、浜松市は文化財保存活用地域計画が作成した。また、平成26年には、市の最上位計画である総合計画として、「世代を通じて共感できる未来の理想を創造する」浜松市未来ビジョンを策定している。本ビジョンの「繋ぐ」の一部を紹介する。(下線部は筆者)

若者を中心に、地域を越えて、伝統文化を継承するサークルが立ち上がるなど、天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えています。また、ひよんどり、おくない、田楽、歌舞伎など多彩な伝統芸能が、次世代へと脈々と引き継がれており、全国から熱い視線を集める地域となっています。これらの伝統芸能は、まちなかでも、イベントとして披露される回数も多く、観光資源としての役割を担っています。歴史的価値の高い伝統芸能は、私たち市民にとって大切な宝物です。

地域の伝統芸能は、最早、地域にのみ帰属するのではなく、地域を超えて継承していくことが必要である。さらに、中山間地域の伝統芸能は、市民全体が享受できる観光資源であることを認識していくべきである。

6 地域からの評価

令和4年12月23日に勝坂自治会定例会において、自治会会長は「集落全体は、8世代のみになり、高齢化して、今後は保存会のみでは勝坂神楽を実施することが困難である」と述べ、NPO法人わたぼうしグラウンドに、舞、お囃子の継承の提案を受けた。川名ひよんどり保存会からは、1月4日の川名のひよんどりの当日に、若蓮からの参加はゼロとなり、今後ますます、NPO法人わたぼうしグラウンドへの支援を求められた。

参考資料

シナリオ1	地域の伝統芸能の消滅
伝統芸能の担い手が高齢で減少することに加えて、継承者も集落から離れて祭りに参加しない現状が続くと、伝統芸能は消滅する可能性がある。	
NPO法人わたぼうしグラウンドの試み	
勝坂神楽 令和3年度に引き続き、令和4年度も神事のみを執り行い、伝統芸能の奉納が実施できない状況が続いた。令和4年12月23日に勝坂自治会定例会において、自治会会長は集落全体が8世代のみになり、しかも高齢化して、 <u>今後は保存会のみでは伝統芸能の勝坂神楽の実施は実施することが困難であると述べ、NPO法人わたぼうしグラウンドに、勝坂神楽の舞、お囃子等の全てを伝えることを前提として、勝坂神楽の継承の提案を受けた。</u>	
川名のひよんどり 令和3年度は、神事のみを執り行い、令和4年度は、ひよんどりを一部、縮小して実施した。川名のひよんどり保存会の現役世代の高齢化と次世代が後に続かないことから、将来の継承に不安を抱えながらも、集落の世帯数が多いことからすぐに消滅の危機があるわけではない。しかし、 <u>本年度、本来、祭りの主役である若蓮からの参加はゼロとなり、川名のひよんどり保存会に大きな衝撃が走った。結果、NPO法人わたぼうしグラウンドは、本来、若蓮による「火取り」及び「水垢離（みずごり）」の役割を全て任うことになった。</u>	
シナリオ2	近い将来消滅の危機にある伝統芸能をICTを活用した記録・保存し、将来の再生に期待する。
高齢化が進む地域の伝統芸能の衰退に対して、デジタル技術やネットワーク技術を活用して、伝統芸能を電子的に保存・継承する試みが、有効な手段であるとの認識が広がっている。これは、今後とも浜松市の中山間地域の伝統芸能にも普及していくであろう。	
NPO法人わたぼうしグラウンドの試み	
勝坂神楽 新型コロナウイルスの影響で、令和2年度より神事のみの実施である。NPO法人わたぼうしグラウンドは、3年間に渡り神事を記録・保存している。さらにデジタル技術やネットワーク技術を用いて、勝坂神楽の神事をライブ配信している。	
川名のひよんどり 令和2年度は神事のみ実施した。令和3年度からは伝統芸能も一部、縮小して実施した。令和2年度から神事を含めて、デジタル技術やネットワーク技術を用いて、神事、火取り、舞を記録し、ライブ配信した。	
シナリオ3	新しい伝統芸能の継承1 (伝統芸能が伝わる集落の周辺地域中心とした対面式とバーチャルのハイブリッドの継承形態)
教育的な視点から、場所にふれる。ということが重要であると考え、教育委員会に文化財課としての働きかけをしたこともあるが、小学校教育に浜松市周辺11市町村を編入合併して、広大な中山間地域を抱えることになった。そICT活用して市内の小中学校にリモートによる継承活動を提案していくことになる。	
NPO法人わたぼうしグラウンドの試み	
勝坂神楽 1968年に勝坂小学校は閉校しており、勝坂集落の周辺地域の小中学校(気田小、犬居小、春野中学校)の児童生徒から構成される「春野ふるさと少年少女教室」の児童生徒を対象として、勝坂神楽の当日に、勝坂神楽保存会に対して、ICTを活用したりリモートで舞を披露し、助言を受けた。	
川名のひよんどり 令和3年度は、無観客にして、若蓮による「火取り」のみを実施して、伝統芸能である舞を縮小して実施した。令和4年度も、原則的に無観客にして、「火取り」に加えて「水垢離（みずごり）」を実施する予定である。現在、大学生への「火取り」に加えて水垢離（みずごり）には積極的であるが、舞に関しては「おんぼの舞」、「はらみの舞」を大学生に開放している。川名地域の児童を対象として、かわなホームズを結成して、レクリエーション等の活動を実施している。地域の子どもと交流することで、地域の子どもの伝統芸能の参加への支援を目的とした。	
シナリオ4	新しい伝統芸能の継承2 (浜松市全域の次世代の児童・生徒を対象としたバーチャルを中心とした継承活動)
少子高齢化により、現役世代が高齢化し、次世代、次次世代は地域を離れていることから、このままでは、シナリオ1のように衰退・消滅することになる。そのため、過疎化が進む当該集落の周辺の存続集落の小中学校及び高等学校が、行政セクターと連携して伝統芸能継承プラットフォームに参加して、児童生徒が継承するシナリオである。学校単位で個別化し、地域差がある。現状では、授業で伝統芸能を体験し、クラブ活動や伝統行事で継続していくことになる。	
NPO法人わたぼうしグラウンドの試み	
勝坂神楽 1968年に勝坂小学校は既に閉校している。NPO法人わたぼうしグラウンドデザインは、勝坂神楽保存会に対して地域の児童・生徒が継承活動に参加できる仕組みづくりを提案している。地域の小中学校の参加については、小中学校の在籍者で構成されている春野ふるさと少年少女教室や地域の生涯学習、芸術、文化を推進する春野文化センターと勝坂保存会と交渉している。	
川名のひよんどり 川名小学校は、2010年に閉校して、井伊谷小学校に統合されている。しかし、川名の集落の児童・生徒以外に舞を開放していない。井伊谷小学校は、総合の時間の枠組みにおいて提案している。	